

や

まさき

い

ちのみや



手遊び歌やクイズに園児たち73名も大喜び!
～兵庫県健康財団「食育コンサート」～



模擬店はPTA役員を中心に一カ月以上前から準備。当日にかけける意気込みと力強さに園児たちを支えている原動力を感じました

地域といっしょに 幼児教育を考える!

～山崎幼稚園「幼稚園ウィーク」～

★子どもたちの力作
クリスマスツリー

今年、10月31日から3日間
行われ、11月2日(水)には、「ふれあいまつり」が行われました。

公立幼稚園を広く理解してもらう機会として、「幼稚園ウィーク」が全国規模で毎年開催されています。山崎幼稚園においても、地域の園に開放し、保護者と地域が連携した幼児教育を進めていくことを目的に、「幼稚園ウィーク」を実施しています。

当日は園児の家族をはじめ、地域から多くの参加があり、食育コンサートや園児たちの手作りのクリスマスツリーの販売、保護者による15種類を超える多くの模擬店で賑わいました。会場からは、「子どもの成長を感じとれました」「孫の元気な姿が見れて良かった」など、さまざまな声が聞かれました。

こうした地域の人たちとのふれあいや交流の場が、地域全体で幼児教育を考える機会になると思います。

(山崎支部 森井裕矢)



自立の家やローズショップ館内を練り歩くちんどん屋さん
～ちんどん屋・バラエティ・ショー～

一宮町伊和にあるチェシャホーム「はりま自立の家」は、この11月でちょうど30周年になりました。また、福祉ホーム「ローズハウスはりま」も10月に5周年を迎えました。11月6日(日)、はりま自立の家において「秋のオープンハウス」が行われました。

「チェシャホーム」とは…イギリスのレオナルド・チェシャ氏によって始められた障がいのある人の新しい生活の場です。日本ではじめてのチェシャホーム「はりま自立の家」と兵庫県下で最初の福祉ホーム「ローズハウスはりま」は、世界57か国のチェシャホームと友好関係を持ち、障がいのある人たちが趣味の活動や創作活動に取り組み、自由で主体的な生活を送られている「ホーム」です。

焼きたてパンの販売、お茶とお菓子のサービスなど、約200名の来場で場内は賑わいました。

いつまでも住み慣れた家で…

「はりま自立の家」誕生30年

「障がいがあっても一人の市民として共に暮らし、また地域の皆さまにも利用していただけるはりま自立の家」でありたいと願っています」と施設長の鷲尾京子さん。

地域と共に歩んできた自立の家も誕生して30年。これからも障がいのある人たちが住み慣れた家で暮らしていけるよう私たちもいっしょに応援していきます。

(本部・一宮支部 波多野好則)

